

令和3年度 熊本県・熊本市調整会議

日 時：令和3年（2021年）11月24日（水）15時00分～16時00分

場 所：熊本県庁本館5階 知事応接室

出席者：熊本県	知事	蒲島 郁夫
	副知事	田嶋 徹
	副知事	木村 敬
熊本市	市長	大西 一史
	副市長	深水 政彦
	副市長	中垣内 隆久
熊本県議会	議長	小早川 宗弘
熊本市議会	議長	原口 亮志

次第

1 開会

2 挨拶

3 協議

（1）熊本都市圏における高規格道路の整備について

（2）全国都市緑化くまもとフェア及びアジア・太平洋水サミットの開催について

（3）アフターコロナにおける経済回復に向けた観光分野の連携について

4 閉会

議題1 熊本都市圏における高規格道路の整備について

議題1の現状・課題について、資料1に沿って熊本県から説明。

○蒲島知事

事務局の説明のとおり、私は「すべての道は熊本に通じる」という考えのもと、中九州横断道路や九州中央自動車道などの高規格道路の整備を強力に推し進めてきた。

最初は、夢みtainな話だったが、それが着実に進んできていると思う。熊本が、九州の中心に位置する地理的優位性を最大限に発揮するためには、整備が進む高規格道路ネットワークの形成とともに、その受け皿となる熊本市を含む熊本都市圏全体の渋滞解消が、県としても喫緊の課題と認識している。

○大西市長

今知事や事務局からあったとおり、この都市圏の慢性的な渋滞は本当に深刻な問題であり、市民生活や地域経済に大きな影響を与えている。

また、熊本地震の時に高速道路あるいは幹線道路が寸断されたことによって、非常にこの道路ネットワークの脆弱さというものを強く我々も認識した。

今回、熊本都市圏の新たな3つの高規格道路が示されたが、交通課題の解消のみならず、熊本の持続的な発展を見据えた未来への礎となるものであると思うし、九州全体の発展を牽引するということは間違いないと思う。それは、知事がおっしゃったとおり、色々な全ての道がこの熊本に通じてくるといことは、それを受ける受け皿としてのこの熊本都市圏の道路が円滑に繋がること、ひいては九州全体にとっての大きな波及効果に繋がると思う。実現にあたっては、まだ色々な道のりがあるが、国の支援を得ながら、県と熊本市、県議会、市議会の全部で連携しながら、ぜひ取り組んでいきたいと考えているので、よろしく願います。

○蒲島知事

新たな高規格道路の整備にあたっては、熊本はもとより、九州全体の発展に向けて、100年の計として新しい熊本の礎を築くため、これまでの既成概念にも捉われず、道路の高架化や道路空間の有効利用など、あらゆる角度から幅広い検討を行うことが重要だと思う。

道路に関しては、九州の中心である熊本が担う広域防災拠点としての機能を強化するという意味で、高規格道路の整備の加速化が必要になる。これは、先ほど（挨拶で）申し上げた5つの安全保障の「災害に対する安全保障」に繋がるものと考えている。また、「経済の安全保障」について、熊本都市圏では、今月に入り世界的な半導体企業であるTSMCの進出という、本県にとって大変明るい話題が発表された。今後も、半導体関連企業の集積が進んでいくと思う。熊本が世界のニーズを支え、日本経済の安全保障の一翼を担うことになる。

このように、更なる熊本の発展に繋げるため、熊本都市圏の新たな高規格道路の整備にスピード感を持って取り組むことが重要だと考えている。

○大西市長

今知事からもお話があったが、地元経済界の皆さんともよくスクラムを組んでやっていく必要があると思っている。地元経済界の皆さんが入った検討会を設立して、現在10分・20分構想ということで効果を検討いただいている。例えば、観光面においては、10分・20分構想の実現により、熊本での滞在時間が増えることで、来訪者の満足度や経済効果にも繋がるということが予想される。

また環境面でも、熊本都市圏の渋滞解消は走行速度が向上することで、CO₂の排出量抑制にも繋がるということが期待される。ワーストワンであるこの渋滞解消に繋がる10分・20分構想の実現が急務であると考えており、スピード感を持って取り組む必要があると考えている。

そのためには、有料道路制度を活用することも一つの選択肢と考えており、新たな高規格道路3路線の早期整備に向けた議論を深めていきたいと考えている。

今、知事からもお話があったとおり、経済の安全保障という意味では、ある意味国策として大きなプロジェクトで、今TSMCのプロジェクトも動いている。このことへも弾みをつけるという意味でも、今日は萩生田経済産業大臣も予定地にお見えだが、そういった形で、熊本にさらに期待をしていただくためにも、10分・20分構想を現実のものとしていくことで、ぜひ県民・市民の皆さんに、特にこの整備効果等の御理解をいただきたい。また国からの御支援も不可欠だろうと思うので、県、市が中心となって、効果的な建設促進活動を行うための組織を設置していきたいと考えている。県内の自治体あるいは経済界の皆さんとも連携をしながら、検討を進めていきたいと考えているので、よろしく願います。

○蒲島知事

早期に計画を実現するためには、有料道路制度の活用検討を進めながら、県民・市民の皆様の御理解を深めることが重要だと思う。

そのために、市長がおっしゃったように、建設促進活動を行うための組織を設置して、県と熊本市がしっかりと連携しながら取り組んでいくことが何よりも重要だと私も考えている。

○小早川県議会議長

熊本都市圏のネットワーク化や渋滞解消は、市長がおっしゃったように、長年の課題だと思う。私も議員になってからずっと都市圏の交通渋滞がなかなか解消しないということで、関心を持っているところである。

特に、都市圏における高規格道路の整備については、県議会では非常に関心が高まっている。一般質問あるいは特別委員会でも取り上げられて、とりわけ先ほど知事がおっしゃったような、有料道路制度の活用についても指摘があるので、ぜひ早期整備を図るためにも検討を進めていただきたいと思う。

また、個人的に思うことで、高規格道路の整備も大切であるが、整備にはそれなりの時間はかかると思うし、今の一般道路の交通体系、一般道路をもっとうまく使うことができないのか、車の流れをスムーズにする工夫が何かないのか、さらに緻密な検討が必要ではないかなと思っている。渋滞を走っていると、あそこあそこの信号を青にして、もう少し長い時間青にすれば、もっと車は流せるじゃないかと思う時もある。信号調整も含めて、朝夕ラッシュ時の幹線道路への車の侵入制限、あるいは公共交通機関の利用促進なども、今はデジタル技術あるいはAI技術も進歩しているので、渋滞解消の交通対策も多角的・総合的にできるのではないかなと思っている。そういった検討も行って、対策を急いでいただきたいと思う。

また、高規格道路も含めて、都市圏交通を改善していくには県民全体の理解も必要である。これからもチーム熊本あるいはオール熊本で建設促進、渋滞緩和策に取り組んでいただくようお願いする。

○原口市議会議長

市内中心部における慢性的な交通渋滞は、環境問題もそうであるが、経済的な損失は甚大だと思っている。本市議会でも、この対策に非常に関心が高まっている中で、先般

示された熊本都市圏への新たな高規格道路の整備については、渋滞解消の有効な手段として、大いに期待されているよう感じている。

実現に向けては、現段階では未定となっているが、路線の具体的なルートや位置をはじめ、今後様々なことについて議論が必要になってくると思う。先ほど挙げられた有料道路制度や建設促進活動を行うための組織設置ということについても、市議会としても、その役割をしっかりと果たしていきたいと考えている。

いずれにしても、計画を進める中では、県と市を中心とした、都市圏内の関係自治体との連携を踏まえていくことが重要となるので、スピード感を持って、しっかりと取り組んでいきたいと思っている。

○大西市長

小早川議長のお話の一つだけ話させていただくと、先ほどの一般論も含めて今やれる対策をすぐやるという意味では、今熊本市では、国土交通省や県警の皆さんにも御協力いただきながら、交通渋滞を信号などの制御で少し解消できないかということで、今取り組みを進めている。そういった取り組みの成果が少し出てきているので、また県にもぜひ色々な形で協力いただいて、まず今できる限りのことはやっていこうと、交差点改良だとか色々なこともやっている。そういうことをやりつつ、中期的・長期的な展望の中で、スピード感を持って、この3つの高規格道路の話と一緒に進めていくことで、我々も頑張っていきたいと思うので、よろしく願います。

○蒲島知事（まとめ）

県と熊本市は、熊本都市圏における渋滞解消という喫緊の課題解決のため、熊本都市圏の新たな高規格道路3路線の計画実現に向け、連携して取り組んでいくことが合意できた。

計画の実現によって、熊本の更なる発展に繋げるためには、早期に事業効果を発揮させる必要がある。通常の道路整備ではとても時間がかかる。有料道路制度の活用を含め、様々な視点から検討を進めることを確認した。

これらの取り組みを着実に進めるためには、県民、市民の理解を深めるとともに、国の強力な支援が不可欠である。そのため、県と熊本市が中心となって、建設促進活動に取り組み、熊本市周辺自治体や経済界と連携して進めていくことを合意した。

議題2 全国都市緑化くまもとフェア及びアジア・太平洋水サミットの開催について

議題2の現状・課題について、資料2に沿って熊本市から説明。

○大西市長

これまで、コロナ禍で多くのイベント等が自粛を余儀なくされている中で、来年3月から開催されるこの緑化フェアで、熊本を訪れた方々や熊本市民・県民の方にも心が豊かになって、元気を与えられるような希望あるイベントにしたいと考えている。

開催まで残り4ヶ月となり、また12月9日に100日前ということで間近に控えており、これまで以上に県内一丸となった機運醸成に取り組んでいきたいと考えている。

メイン会場の一つである街なかエリアについては、先日花畑広場の一帯が供用開始になった。ここで世界的にも有名なフラワーアーティストである、ニコライ・バーグマンさんが演出される大きな花壇を県産花きで彩ることにしている。これは熊本の魅力を最大限、県内外の皆さんにお伝えできるということで、引き続き、開催に向けて準備をしたいと考えている。

特に、このイベントは屋外でもあるので、コロナ禍においてもウィズコロナの中で開催しやすいイベントと考えている。また、観光の起爆剤の一つとしても、この催しを県内経済回復の大きな転機と捉えて、一致協力した取組みをぜひ県にもお願いしたいと思う。

また、アジア・太平洋水サミットについては、国連「国際行動の10年『持続可能な開発のための水』」の中間年にあたる2023年3月に開催を予定されている、「国連水会議」のロードマップに、この熊本の会議が位置付けられ、サミットの成果である「熊本宣言」が、この「国連水会議」において世界で発信されるという非常に大きなことになった。世界の水問題解決に寄与する宣言が、この熊本で行われることは非常に大きなことである。

県民・市民の皆様がこの会議自体には参加はなかなかできないが、皆さんが参加できる機会として、サイドイベントでシンポジウムなどを計画しているので、熊本においてもサミットをきっかけに、例えば、これまで取り組んできた地下水保全の取組みが未来に更に繋がっていくように進めたいと考えている。

また、サミット参加者が熊本の魅力に触れられるように、緑化フェアとも連携して、おもてなしができるようにしたいと考えている。

さらに、水サミットは、特に入国時の防疫措置等の水際対策が非常に必要となってくることから、現在関係省庁との連携・調整をやっているが、この点も含めて、ぜひ県市連携して、開催に向けた準備を進めていきたいと考えているので、よろしく願います。

○蒲島知事

熊本県が持つ豊かな自然環境は、世界に誇るべき宝だと思っている。来年3月から5月にかけて、熊本で開催される第38回全国都市緑化くまもとフェアとアジア太平洋水サ

ミットは、熊本の取組みを国内外に発信し、また次代に繋げる良い機会であり、環境の安全保障に通じるものと考えている。

また、緑化フェアのイメージキャラクターはくまモンが務めている。くまモンがフェアの成功に貢献してくれることを祈っているし、確かにそうやってくれると信じている。県としても、最大限の連携・協力をして参る。

○小早川県議会議長

先日11月11日のフェア実行委員会総会に出席して、イベントの概要など説明いただき、また今日の市長のお話を聞かせていただいたが、今回のフェアや水サミットは本当に有意義な賑やかなものになるなど大きな期待をしたところである。

特に、今回のフェアは、1986年のグリーンピック以来36年ぶり2回目ということであり、前回は約125万人の来場者ということで、かなり大盛況だったなと思っている。

実は以前、私が勤めていた東京の都市計画事務所の社長である南條道昌さんという都市計画の中では有名な方で、もう亡くなられたが、当時のグリーンピックに関わっておられた。グリーンピックが終わってから、4年後ぐらいに入社したが、お前は熊本か、熊本は水と緑をテーマに地域づくりを進めれば、もっともっと素晴らしい街になるとよく言われたことを覚えており、まさに水と緑が今回のイベントのテーマでもあるし、このイベントを契機に、熊本県や市の魅力を倍増させて、未来志向の都市づくりに移行するというか、ステップアップする絶好のチャンスではないかなと感じている。

ぜひ、このフェアを大々的に宣伝して、熊本の都市づくりの原動力に繋がっていただきたいと思うし、またフェアは熊本市の3つのメイン会場のほかに、各市町村にもパートナー会場が設置されると聞いているので、ぜひ熊本市だけのイベントではなく、県内各市町村の取組みでもあるとパートナー会場にも頑張ってもらっていただき、県民一体となった形で、このイベントを盛り上げていただきたいと思う。

○原口市議会議長

本市は、森の都、地下水保全都市として繁栄してきた。このような中、国内各地や世界中から注目されているイベントである、第38回全国都市緑化くまもとフェアや第4回アジア・太平洋水サミットの開催を県民・市民が心待ちにしている。

それぞれが成功を収めるためには、機運醸成が重要であり、そのためには県と市の連携が必要不可欠になる。

また、市内でこのような大きな公式イベントは、コロナ禍以降、初めてになると思われる。感染症対策には万全の体制で臨んでいただきながら、確実な開催実現に向け、取り組んでいきたいと思う。よろしく願います。

○大西市長

小早川議長からも色々とお話があったが、県内の全ての市町村がパートナー会場という形でコラボレーションをしていくことになる。熊本県全体で県外の方をお迎えするというので、熊本市内では3会場あるが、メイン会場の花畑広場には、県内各市町村がそれぞれ順番になって出店をしていただくとか、展示をしていただくという場所を用意している。県内各地の市町村でもぜひPRをどんどんしていただいて、皆さんが集まる、

そしてどんどん県外に発信できるような形にしていきたいと思うので、よろしく願います。

また、先日の会議後、市町村長に集まっていただき、そういった意識合わせもさせていただいたので、県から更に県内の各市町村に対しても働きかけをよろしく願いたいと思う。

○蒲島知事（まとめ）

緑化フェアや水サミットについては、熊本の自然や地下水保全などの取組みのみならず、熊本地震からの創造的復興の姿や熊本の魅力を発信する良い機会だと思う。

開催の実現に向けて、新型コロナウイルスへの万全な感染防止体制を構築した上で、準備を進めていくことを確認した。

また、イベントの情報発信や来熊者への県内各市町村の地域資源を生かしたおもてなしの展開など、二つのイベントの成功に向け、県と熊本市が連携して取り組んでいくことを合意した。

議題3 アフターコロナにおける経済回復に向けた観光分野の連携について

議題3の現状・課題について、資料3に沿って熊本県から説明。

○蒲島知事

今後はアフターコロナを見据えた取組みを進めていかなければならない。

この春生まれ変わった熊本駅の駅舎は、安藤忠雄さんによる武者返しをモチーフとした堂々たる風格である。まさに熊本の玄関口としてふさわしく、熊本が誇るべき宝ではないかと思う。私も多くの全国、全世界の駅を知っているが、今の熊本駅ほど品格のある駅は少ないのではないかなと思う。そういう意味で、熊本駅は我々が誇るべきものだとみんなでおもてなしをすればいいなと思う。

また、熊本城ホールなどの大規模集客施設や複数のシティーホテルを有する熊本市のポテンシャルは非常に高いと認識している。

先ほどの議題でもあった2つのイベントにおいても、国内外から多くの関係者が熊本市にお越しになる。

さらに、先日TSMCの立地が決まり、徐々に水際対策も緩和されてきている。今後、ビジネス客を含め多くの観光客が熊本を訪れることが期待される。

県においては、引き続き観光の需要喚起策に取り組んで参る。また、アフターコロナの力強い経済回復に向け、デジタルを活用した新たな観光や漫画、スポーツといった熊本の強みを生かしたコンテンツの活用、県産品の販路拡大等の施策を推進して参る。

これらの取組みを加速化し、より大きな成果を導き出すため、県と市の更なる連携が必要である。市が持つ大きな吸引力と県内各市町村が持つ観光地の魅力をかけ合わせ、強みの相乗効果に繋がる取組みを今後実施していきたいと思う。

まずは、国内外からの観光客に交通結節点や大規模集客施設を有する熊本市にお越しいただき、さらに熊本が誇る県内各地域の観光地へ訪れてもらえるような仕組みを、県と市で連携して実施できればと考えている。

○大西市長

今知事からお話があったように、非常にポテンシャルが色々ある中で、直近の経済情勢で見ると、日本銀行熊本支店が発表している県内企業短期経済観測調査の直近の結果を見ても、業種別のDI、業況判断は宿泊・飲食サービスと運輸・郵便において、特に大きな影響が続いていること、また観光関連産業が依然厳しい状況であることが現状と認識している。

これらに対応するためにも、旅行需要の回復ということであれば、県と連携し、LOOKUP Kumamotoキャンペーンを実施してきた。

熊本県の熊本再発見の旅と熊本市のLOOKUP Kumamotoキャンペーンの双方を一緒に連携して実施したことにより、相乗効果が非常に出ていているということで、評判が実は相当

良くて大好評をいただいている。関係者からも、今コロナが落ち着いている時期で、非常に効果があるということで、喜びの声と今後もぜひ事業を継続して欲しいということがある。そういった期待にしっかり県市連携して応えていきたいと思う。

また、熊本駅ビルは、本当に品格のある駅として再開発が完了した。私も先日テープカット以来、初めて行ったが、駅ビルとして開業したアミュプラザで私も並んでお茶を買ったりしたが、非常に賑わっていた。

一方で、街中が賑わってないかということと同じように賑わっていた。そういう意味では、市内のもう一つの陸の玄関口のバスターミナルや桜町エリアもかなり相乗効果が出てくるだろうと思う。ただ、ここには交通をしっかり連携して結びつける「まちなかループバス」を走らせているが、まだまだ認知度と利用度を高めていく必要があると思っている。

また、熊本城ホール等で開催される大規模コンベンションやイベントに集まった観光客の皆さんを県内各地の色々な観光地等々に広げていく、回遊に繋げていくことを、県内全域の経済波及効果というのを我々も意識しながら対応していくことが大変重要であると考えている。

熊本市においても、コロナ後の出口戦略は非常に重要だと考えており、今の感染対策と需要喚起を両立して、コロナに対応した新しい観光スタイルの確立が必要だと考えている。

現在、国が進めているワクチン・検査パッケージの実証実験結果を注視していきたいと思うし、これまで県内市町村とも連携して取り組んできたLOOKUP Kumamotoキャンペーンのノウハウを生かしながら、最大限の事業効果を創出できるように民間事業者の皆さんの御意見もしっかり伺い、反映しながら、県と連携した取り組みが必要だと思っている。

融資など色々な面で県と市が一緒になって協調して実施した事業は、地域経済にプラスになっていると思うので、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたい。

○小早川県会議長

コロナ禍で観光産業が非常に打撃を受けている。市長もおっしゃったように、観光産業は、宿泊、交通、飲食など裾野が広い産業である。熊本経済を支えている大きな柱でもあると思うので、より一層、県と市が力を合わせて、先ほども市長がおっしゃったように、熊本再発見の旅とLOOKUP Kumamotoキャンペーンという形で、力を合わせて支援策に今後とも取り組んでいただきたいと思う。

特に、先週国から新たな経済対策が発表されているので、国の経済対策もベースにししながら、観光産業の回復を進めていただきたいと思う。

あるホテルの経営者から聞いたが、熊本の場合、人口の多い福岡からの観光客がかなり多いと、その方は天草のホテル業をなさっていて、半分近くは福岡からと。早く県境を越えた移動の制限緩和、あるいは他県からの来訪者に対する観光キャンペーンなど、コロナの状況にもよるが、そういったものにも取り組んでいただきたいということであった。福岡に限らず、九州各県から誘客して、熊本市から県内を周遊していただくような仕掛けづくりが必要ではないかなと思うので、検討もお願いしたい。

幸いにも、熊本市内においては、駅前が開発やアミュプラザもでき、中心部に行くと、バスターミナルやサクラマチ、新しい商業施設で言えば、下通でいくとココサ、星野リ

ゾートが建設中で立地予定ということで、今後TSMCの企業進出も進んでくれば、ビジネス客も多くなってくると思う。ぜひそういった開発状況なども的確に把握しながら、一人でも多くの方々に熊本に来て、楽しんでいただけるような、総合的な観光戦略というのにも取り組んでいただくようお願いする。

○原口市議会議長

宿泊事業者や旅行事業者等が大きなダメージを受けておられ、その状態が非常に長期化している。本市議会においても、この窮状を訴える要望を多数いただいております、経済回復に向けた対策は喫緊の課題であると考えている。

現在、陸の玄関口の一つである桜町地区にはサクラマチクマモトや熊本城ホールが開業されており、今月13日からは、新たに整備された花畑広場の供用も開始されたところ。

また、熊本駅には、先ほどからお話が出ているように、アミュプラザが開業され、新たな賑わいが生まれたところ。思い起こせば2年前、サクラマチクマモトの開業当時は、県内全体が大きな賑わいを見せていたが、このような中で、サクラマチクマモトやアミュプラザ辺りが競合ではなく協調しながら、更なる一つの工夫を出せば、経済回復の方も全く夢ではないと思っている。

県内市町村全体の経済を回復させるためにも、裾野の広い観光関連産業に対する支援として、県と市でしっかりと連携を取り組んでいただきたいと思います。

○蒲島知事（まとめ）

アフターコロナを見据えた取組みを進める中で、熊本駅や桜町バスターミナルなどの交通結節点や熊本城ホールなどの大規模集客施設には、県民のみならず、今後増加が見込まれる観光客やビジネス客が集まることが期待される。

このようなお客様に、熊本市から県内各地を訪れてもらえるような事業展開を、県市がより連携して取り組んでいくことを合意できた。

○大西市長

本日この会議を準備いただいた蒲島知事をはじめ、小早川議長、県執行部の皆さんに改めて感謝を申し上げたい。

本日、こうして意見交換をさせていただいた内容3点については、重要な課題であるし、それぞれ非常に有意義な意見交換と合意ができたと思っている。

やはり、熊本県と熊本市が力を合わせれば、相当なパワーが広がっていくと思う。今後とも連携を深めながら、誰もが住み続けたいと思えるような、そして誰もが住んでみたくなる、あるいは多くの方が訪れたい熊本を創っていくために、上質な生活都市の実現というのが私の目指す熊本市の姿である。TSMCも立地すると、熊本市内に非常にプラスに影響してくると思うので、雇用面でも人材確保の面でも、交通の面でも様々な面で連携しながら、さらに全県的にその波及効果が及ぶように、しっかり我々も頑張っていきたいと思う。これからも御指導方よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

○蒲島知事

私からも一言御礼を申し上げたい。

短い時間ではあったが、県市が連携して取り組む3つの議題について、有意義な意見交換ができたと思う。

引き続き、議会を含めた、県、市、トップ同士が率直に意見を交わすことで、全国のモデルとなるような連携を深めていきたい。

ただ、これがうまくいくためには、コロナが収束することが大事である。今日の新型コロナウイルスの感染者数はゼロだった。大変うれしく思う。本日は、誠にありがとうございました。

(以上)